

教育委員会だより

令和5年11月29日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

内向きの成果が大切！ ～市指定研究発表会～

秋は、研究発表会シーズン！10/25 市之倉小学校（10月号で紹介）に続き、11/1 北陵中学校、11/9 根本小学校校で研究発表会が開催されました。

北陵中学校では、研究主題「できた・わかったが実感できる授業づくり ～仲間と共に課題解決を図り、自己肯定感の高まりを実感できる生徒の育成」を掲げ、各教科の研究に取り組みました。学習の主体者は生徒であるという考えを貫き、意欲を喚起する導入、個別最適な学びと協働的な学びの往還による展開、課題解決とやり抜いたことを実感できる終末の工夫を研究内容に取り組みました。学びを自分事として捉え、仲間と目的意識をもって積極的に関わる姿が印象的でした。

根本小学校では、研究主題「わかった・できたを実感し、学ぶ楽しさを味わう授業の創造 ～子どもの「もっと」を大切に～」を掲げ、算数科の研究に取り組みました。子供が自分なりの見通しをもち、自己選択しながら追究する授業の仕組みづくりと、多様な考えに触れることで学びを深める学び合いの場や学習形態の工夫を研究内容に取り組みました。各学年段階に応じた算数科の学び方を身に付け、自分の考えをもって教師や仲間いきいきと関わる姿が印象的でした。

研究発表会は、一朝一夕にできるものではありません。めざす子供の姿を描き、研究主題を設定し、研究内容や方法を具体化するという営みに始まり、実践と検証を繰り返す毎日です。そして、その成果を発信するのが研究発表会です。

とかく発表会というと“外向き”のイメージが強いわけですが、一方で本当に大切なのは“内向き”の成果です。教師の指導力向上と子供の成長こそが学校教育の中核です。コロナ禍で多くの学校文化が縮小・延期・中止・廃止に追い込まれてきました。そんな中であっても教育研究の意義を再認識し、子供とともに真摯に実践に取り組んだ教職員。険しい道のりであったとは思いますが、一つの節目を乗り越え「やってよかった！」と内向きの成果を喜び合うことができたことでしょう。また、参観者も3校の発表から多くを学び得ることができました。



思いを共有 ～民生児童委員・教育長と語る会～

11月28日（火）、民生児童委員協議会の活動として「教育長と語る会」が開催されました。駅北庁舎大ホールには、各地域（小学校区）の主任児童委員さんと会長さんがお集まりでした。今回の議題は「多治見市における不登校の現状と支援の在り方について」でした。議題の設定理由は「子供の数が減っているのにどうして不登校の数は増えているの？」というみなさんの素朴な疑問からです。

教育委員会からの報告に続き質疑応答の時間が設けられました。教育委員会や学校の取組に対するご質問やご意見を伺うことができ、委員のみなさんと生きづらさを抱える子供や家庭への思いを共有する有意義な時間となりました。



「順調です！」 ～笠原小学校仮設校舎建設～

笠原小学校仮設校舎建設工事が進んでいます。基礎工事を終え、南側から順次2階建ての建物ができあがってきています。進捗状況は概ね4分の3程度。現場責任者の方からも「順調です！」と伺いました。建物本体ができたら、天井や床などの内装工事に取りかかるとのことでした。

途中、中学校の特別支援学級の生徒たちが見学に訪れ、責任者の説明を聞いていました。大きなクレーンで資材を持ち上げる様子を興味深く眺めていました。建物の完成は、来年1月末の予定です。引越しも近づいてきました。



副教育長のひとりごと「どこでも・だれでも」

新教育長就任挨拶のため、東濃特別支援学校を訪ねました。校長先生が丁寧に対応してくださり、懇談の後は校舎内をご案内いただきました（私は、昨年勤務していた小学校から中学部へ進んだ生徒と感動の再会！）。懇談の中で、こんなお話がありました。「児童生徒数は、この10年間200名前後を推移してきました。ところが来年度は小中高合わせて240名近くの予定です。教室確保のために特別教室を改装しています。本校での受入は限界が来ているので、関係市とも協力し、多様なニーズに応えていく仕組み作りが必要だと考えています。」

市内でも特別支援学級増級や新設申請が相次ぎ、通級指導教室利用者も増加しています。どこでも・だれでも安心して学べる環境作りは喫緊の課題です。